

# 新型コロナウイルス感染症の報告が増加!

## 【概況】

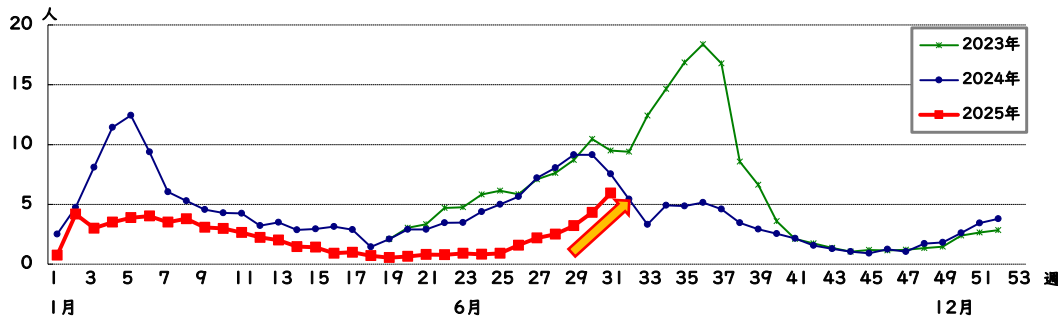
2025年第31週(7月28日~8月3日)の定点当たりの患者報告数<sup>※</sup>は、横浜市全体で**5.94**となり、6月中旬(第25週)以降、患者報告数が増加しています。

患者の年齢構成は、50歳代が17.8%と最も多く、10歳未満が15.0%、60歳代が13.2%となっています。

※ 1週間に1回、定期的に医療機関(市内90か所)からご報告いただいた患者数の平均値です。

## 【市内流行状況】

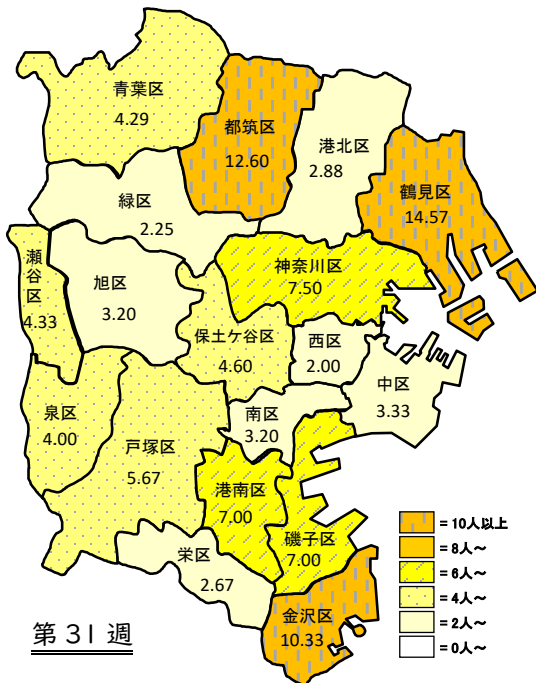
新型コロナウイルス感染症は、2023年第19週(5月8日~5月14日)から定点把握疾患となりました。2025年は緩やかな減少から横ばいの状態が続いていましたが、第25週以降、増加に転じています。第31週は5.94です。



### 定点あたりの患者数推移

2023年第19週~2025年第31週

※ 2025年14週(3月31日~4月6日)以降、定点医療機関が153→90機関へ変更されました。



## 新型コロナウイルス感染症とは

潜伏期は通常1~7日で、

感染者から1~2m以内の距離で、ウイルスを含んだ飛沫やエアロゾルを吸うことで感染します。換気が悪い室内は注意が必要です。ウイルスがついた手で粘膜(口・鼻・目)を触ることで感染します。咽頭痛、鼻汁・鼻閉といった上気道症状に加え、倦怠感、発熱、筋肉痛などの全身症状を生じることが多いですが、無症状の人もあります。軽症の場合、多くは発症後1週間以内に症状が改善しますが、症状が持続(いわゆる後遺症)する場合があります。予防には、マスク着用を含めた咳エチケット、換気、手洗いやアルコールによる手指消毒、ワクチンなどの基本的な感染対策が効果的です。

登校(園)基準は、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで出席停止とされています。なお、発症から10日を経過するまでは、当該児童のマスク着用が推奨されています。



最新の感染症情報は  
横浜メディカルダッシュボード